

第20回

あさのめ 県政報告会

コロナ感染防止対策徹底

日時 2022年
6月21日(火)

開場 14時30分

開会 15時00分 閉会 16時30分

埼玉県議会議員

浅野目 義英 (無所属)

(公社さいたま緑のトラスト協会保全第1号地にて)

会場

埼玉会館小ホール

● さいたま市浦和区高砂三丁目1-4

会費

無料

お身体ひとつでお出まください。

第20回「あさのめ県政報告会」 参加お申込書

(ご出席 ご欠席 代理) ○でお囲みください

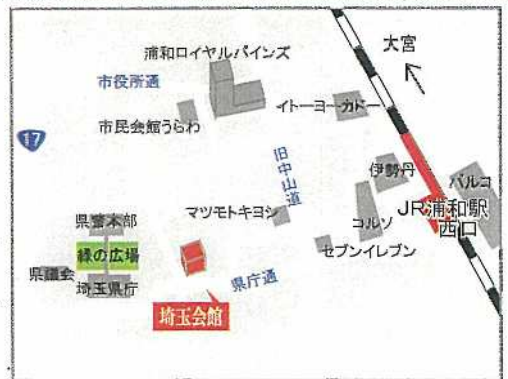
ご芳名

ご同伴者

TEL

FAX

ご住所 〒



事務所からご案内等をお送りさせて頂く場合があります

お問合せ・お申し込み先

埼玉県議会議員 浅野目 義英 〒330-0075

電話 048-762-7133

あさのめ事務所 さいたま市浦和区針ヶ谷2-7-8 FAX 048-762-7144

www.asanome.com mail: urawajimu@asanome.com 【浅野目義英】【埼玉県議会議員浅野目義英】

参加申込書
24時間受付中

fax 048-762-7144

電話・メールでのご連絡もうけたまわっております
事務所電話 048-762-7133

✉ urawajimu@asanome.com

日時

2022年 令和4年 6月21日(火)

開場 14時30分 開会 15時00分 閉会 16時30分

第20回

埼玉県議会議員浅野目義英

あさのめ県政報告会

会場 埼玉会館 小ホール
● さいたま市浦和区高砂3丁目1-4
会費 無料 お身体ひとつでお出まください。

- 8月15日には半旗を揚げ反戦の意思表示を
- 分身ロボット「オリヒメ」で、生きる力の就労を
- 喀痰吸引を必要とする人を不利益にするな
- 硫黄島の御遺骨を県知事は出迎えよ
- 他

コロナウイルス感染症予防

適切な感染防止の措置を講じて注意を図りながら開催させて頂く所存です。
30分に1回の換気休憩をします。お隣と1.5mの距離をとります。

いずれかを○でおかこみください。

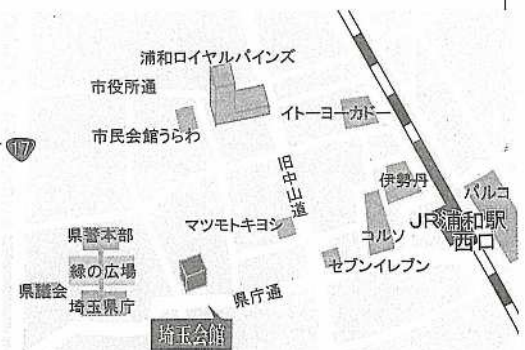
ご出席 ・ ご欠席

お申し込みフォーム

| | | | |
|-------|--|------|--|
| ご芳名 | | ご同伴者 | |
| ご住所 | | | |
| TEL | | FAX | |
| おひとこと | | | |

お問合せ・お申し込み先

埼玉県議会 浅野目義英（あさのめ事務所）
〒330-0075 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷2-7-8
TEL 048-762-7133 FAX 048-762-7144
e-mail: urawajimu@asanome.com
www.asanome.com



【浅野目義英】【埼玉県議会議員浅野目義英】

あさのめ 埼玉県議会

全報告完成

全36ページ

挑戦、改革、実行力 古い政治を変える私の誓い

間もなく、埼玉県議会議員としての私の任期が終え、これまでも毎任期終了時に行ってきたが、今回も「全報告」を出させて頂いた。投票により私へ与えて頂いた4年間の任期。この間に果たさせて頂いた仕事の報告と解説をすることは、やり遂げなければならぬ義務だと思っっている。ネット上でのコミュニケーションが増えた。スピードがあり、言葉に軽さやノリが求められている。だから、私の周りにも冊子での「全報告」を出すことに否定的な意見もあった。しかし、

私が36ページの文章をしたため、レイアウトを決め、写真を撮り、完成にこぎつけた。丁寧な言葉で伝えることは大切だと思っっている。議員として活動していると、よく「これは絶対に何とかしなければならぬ」と感じることもある。大義は私の大切にしていく価値の一つだが、動かさなければならぬというどうしようもない衝動力で私は動いてきた。

不条理に立ち向かう人と共に戦い、より良い未来を先取りする決意を貫いてきた。人々の生活には様々なドラマがある。その一つひとつにきちんと応えようという仕事を果たしてきた。この冊子はその全ての記録だ。

「お願い」
ご希望の方は、下記あさのめ事務所までご連絡頂ければ嬉しく存じます。こちらからお送り申し上げます



あさのめ
埼玉県議会 全報告
浅野目 義英

感動県政 感動浦和

感動県政 Vol.75
あさのめ新聞
無所属 浅野目 義英 埼玉県議会活動報告 2022.11.19
発行 埼玉県議会議員 あさのめ事務所 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 2-3-2

埼玉の課題がコロナ禍で顕在化

新型コロナウイルスは、日本や世界の風景を急速に変えてしまいました。あまりにも多く存在する課題ですが、今何が起きているのか、コロナ禍後の社会はどうなるのかを見つめなければなりません。そのためには、コロナ禍が気づかせてくれた課題を期待されるイノベーションで、私たちは新しい社会像として創造しなければなりません。

コロナ禍を通じて顕在化した課題

これまで把握されていなかったが、コロナ禍で顕在化した新たな生活課題。

- 高齢者の心と体の働きが弱くなっている、また認知の低下
- 障害者の交流機会が減少
- 親以外の大人との交流が減った子ども
- 発達障害のある学生の生活リズムが一変など

地域活動の担い手と今後の活動のあり方への影響

- 地域活動の停止による活動者のモチベーションの低下
- 町会等の交流行事の停止に伴う地縁関係や一体感の希薄化
- 日中、地域にいたり、地域に関心のある人は増えたのに既存の活動につながらない
- 中高校生のボランティア活動の機会の減少など

情報格差への対応

- デジタルスキルの世代間の差
- 外国籍居住者の言葉の課題
- テレワークの利用が所得格差に連動
- デジタル格差を通じて経済的格差の広がりなど

(東京都福祉保健局の資料をもとに改変)

重大だと思われる教育的強制

大人へは旅行支援、子どもへは黙食要求とは異質の様子を余儀なくされています。これは、基本的な人権の視点からも重大だと思われるなりません。

また、学校や園でマスクを着用するよう子どもたちは指導され続けており、そのため着用は事実上強制となっている側面があります。また、大人たちとは違い、黙食も行動制限もまだ続けられており、子どもたちはコロナ禍前の学校、園生活

マスクする子ども しない子ども
ともに理解し、尊重し合おう

私たち、私たちが、ひとりひとりが違う個性を持っている。問題が得意な子、体が丈夫な子、心が繊細な子ども、みんな違ってみんな良い！
マスク着用について一掃、風邪の予防のためにマスクをする子、反対に病気や体調などの健康上の理由で、マスクをしない子、できない子もいます。
マスクをする子どもしない子どもお互い理解し、尊重し合っ、いじめ差別、偏見のない、みんなが仲良く笑顔で過ごせる園・学校生活を作っています！

みんながマスクをする子もしない子も平等に

第21回
あさのめ県政報告会
不条理に立ち向かう人のために戦う

2022年 令和4年 11.25 金
埼玉県館 小ホール
開場 14時30分
開会 15時00分
閉会 16時30分

事務所を移転いたしました。

埼玉県議会議員 あさのめ事務所
無所属 浅野目 義英

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 2-3-2
☎048-762-7133 編048-762-7144
✉urawajimu@asanome.com www.asanome.com

未来社会の現実

分身ロボット「オリヒメ」を、 けやき特別支援学校に複数台導入せよ



20世紀を代表する思想家、ハリエイクは次のように語っている。

「体の弱い子供が、ある社会においては、他の社会よりも多く生き延びるチャンスを持つているかどうかは、その社会の構造に関わることだ。」

この言葉は、分身ロボット「オリヒメ」の存在意義と役割の背中を強く押し込んでいる。

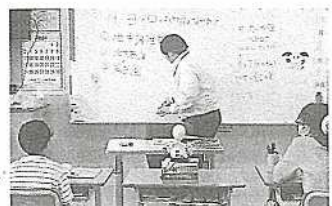
埼玉県は、「オリヒメ」



「オリヒメ」を使った授業風景（県立けやき特別支援学校）

「オリヒメ」から授業に参加しているのは正に分身、もう1人の自分だから、学校の教室に置いておけば、リアルタイムで教室の様子を分かる。ベッドから先生の話を聞き、自分の発言をし、クラスメイトの声を聞き、手を振る、目を光らせるなど、自分の体のように動かすことができる。有名になったロボットだ。遠隔で意思疎通ができるなどの優位性が認められ、ベッドの上からでも、まるで教室にいるのと同じ感情の同期ができて、学習に取り組むことができる。時代は、ここまで来たのだ。

もう1枚、写真を持ってきた。両脇にいるのが小児医療センターに入院中でけやき特別支援学校に通っている子供だ。真ん中は、実はもうお亡くなりになった小児がん治療中の女の子がこのロボットから授業に参加していた。授業の内容は、ヨーロッパ大陸は緯度が高いのになぜ温暖なのかという授業内容だろう。



平成30年、令和元年、令和2年と3年間、けやき特別支援学校では「オリヒメ」1台を使った実践教育が行われた。画期的な成果があったと認められ、文部科学省に報告されたと聞いている。



令和4年から、熊谷特別支援学校、川島ひばりが丘特別支援学校でも導入が決まった。けやき特別支援学校では2台体制となり、私の要求が実現した。

埼玉県立けやき特別支援学校とは…

平成29年、埼玉県立小児医療センターは、さいたま日赤病院と併設新設された。同センターに入院している小中学生が、学習するための病弱特別支援学校。同センター7階に開校している。体調や治療に合わせて学習が進められ、注射などの治療が必要な場合や昼食時にはエレベーターで学校と病棟との間を効率よく行き来することができるようになっている。入院前と変わらず学校生活を送れるように、また退院後に元の学校へスムーズに復帰できるように、さまざまな配慮がされている。



右・さいたま日赤病院 左・県立小児医療センター

ALSなど重度身体障害の方の生きる力に活用せよ



ALSは、徐々に全身の筋力が弱くなる病気だ。自分で食事や呼吸ができなくなる。治療法は対症療法の延命治療、つまり気管切開の呼吸器装着しかない。装着しなければ死を意味するし、装着すれば生を手の中に入れることはできるけれども、絶え間のない絶望から離れることはできない。

を前に、私は肅然とさせられる。希望の光、就労の光、生きがいの光をどうやってたかざすことができるのだろうか、私はいつも思う。群馬県庁は総務部財産有効活用課が主導し、ALSなど重度障害の方が自宅等から「オリヒメ」を遠隔操作し、県庁32階のカフェのスタッフとして働いている。※下段写真参照

東京都港区は障害者福祉課が主導し、7月から、重度障害などで働くことが難しい方を対象に、区役所1階の福祉売店で、「オリヒメ」を使った就労機会の創出事業が始められている。

神奈川県庁でも、移動が困難なALSをはじめとした障害の方が「オリヒメ」を使った在宅勤務により、福祉ショップへの来訪者案内や声かけを実施した。



カフェで活躍する「オリヒメ」(群馬県庁32F)

我々が目指さなければならぬ未来社会は、重度身体障害者でも、難病でも、様々な理由で家から出られない人でも子供でも、存在や役割を得て、誰かに必要とされている、自分は人のためにならなくて、自分は生きていくを自覚でき、自分を否定しなくなる社会ではないか。

通勤が難しくても、ベッドの上でも、在宅なら働ける。そういったALS患者さん、肢体不自由の方も多いため、移動が不可能でも、行きたい場所、行かなければならない場所に、この「オリヒメ」を置けば、その場にいるかのようなコミュニケーションが可能で、就

福祉部長

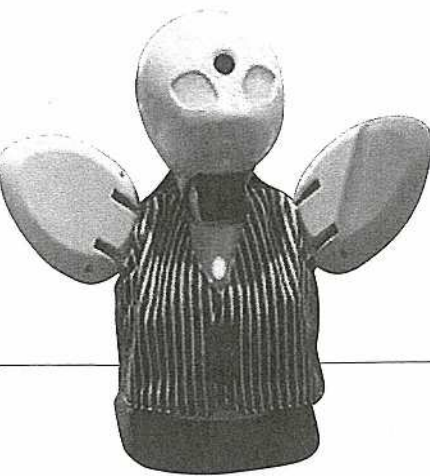
重い障害があっても社会参加や就労につながることで、希望や生きがいを持つことができる。それは、誰一人取り残さない社会の実現につながるものだ。県は、「オリヒメ」をデジタル技術を活用した障害者の社会参加促進の方策の一つとして研究していく。民間や他県の活用例を把握し、ロボット開発者、障害当事者、就労継続支援事業所、企業の方々の意見をお聞きし、県デジタルトランスフォーメーション推進計画を踏まえた具体



的な取組として、検討する。埼玉県立けやき特別支援学校（さいたま市南区ラムザタワー3階）は、埼玉県の就業支援と国のハローワークが一体化した「就職活動」を全面的にサポートする施設。ここに、オリヒメが設置されることになった。ここで、利用者の方に、検温・手指消毒の御協力をお願い、利用目的に合わせた対応窓口の御案内、セミナーや企業面接会の参加者に対して、開始前の連絡事項の説明などを行うとのことだ。



新しく設置が決まり、稼働しているオリヒメ「埼玉しごとセンター」(さいたま市南区のラムザタワー)



分身ロボット「OriHime」

吉藤健太朗氏(34)が学生時代に開発した遠隔でコミュニケーションができるロボット。カメラ、マイク、スピーカーが搭載されている。様々な名称で呼ばれるが、ここでは「オリヒメ」と統一した。医療、教育、テレワークなどで活用が進められている。

弁士

あさのめ

(無所属)

浅野目 義英
埼玉県議会議員

県政報告演説会 令和5年5月27日(土) 浦和駅西口

掲示責任者：高柳和之 埼玉県さいたま市浦和区前地1-1-8 印刷所：伊部印刷株式会社 福井県越前市家久町29-8-1



あさこのめ

埼玉県議会議員
浅野目義英

埼玉県議会 全報告



感動県政

感動浦和

無所属

(公社) さいたま緑のトラスト協会保全第1号地にて
※本紙 P28-29 をご参照下さい

挑戦、改革、実行力 古い政治を変ええる 私の誓い

埼玉県議会議員 浅野目 義英
さいたま市浦和区



**不条理に立ち向かう人と共に戦い
より良い未来を先取りする意思**

間もなく、埼玉県議会議員としての私の任期が終える。

これまでも毎任期終了時に行ってきたが、今回も「全報告」を出させていただいた。投票により私へ与えて頂いた任期。この間に果たさせて頂いた仕事の報告と解説をすることは、やり遂げなければならぬ義務だと思っている。

ネット上でのコミュニケーションが増えてきた。スピードがあり、言葉に軽さやノリが求められている。だから、私の周りにも冊子での「全報告」を出すことに否定的な意見も

あった。しかし、私が文章をしたため、レイアウトを決め、写真を撮り、完成にこぎつけた。丁寧な言葉で伝えることは大切だと思っている。

議員として活動していると、よく「これは絶対に何とかしなければならぬ」と感じることもある。大義は私の大切にしていく価値の一つだが、動かなければならないというどうしようもない衝動力で私は動いてきた。不条理に立ち向かう人と共に戦い、より良い未来を先取りする意思を貫いてきた。

人々の生活には様々なドラマがある。その一つひとつにきちんと応えようと仕事を果たしてきた。この冊子はその全ての記録だ。

「攻撃目標」はどこか？

私が仕事をさせていたでいて、地方議会は二元代表制といわれる。長も議員も別々の選挙で選ばれてくるから、言わば大統領制の形態だ。「議会は長(執行部)の独善を指し、その暴走・独走を阻止することに役割がある」。よく言われることだ。つまり、議院内閣制である国政の与党・野党という役割は存在せず、議会はすべてが野党という認識だ。長(執行部)こそが「攻撃目標」で、その際の緊張関係を保つということが、認識の前提ともされている。世間でよく言われているし、教科



で、職員給与を削減することに賛成したのに、県議会議員報酬の削減には反対した。再選しやすく民意を反映しにくい一人選挙区の多さは棚ざらしだ。絶句に値する認識錯誤と怠慢だ。

改革を求められていることが遅々として進まない。つまり、地方議会の実態は、「攻撃目標」が議会全体に存在してしまっている。という新しい認識を持つことが必要だ。この「攻撃目標」とは、党派を問わず守旧派であり守旧思想であろう。丁寧にもって挑まなければならぬ改革への作業だ。

**必ず実現させる
気概を持つ**

「できない」と初めから思わないようにしている。「きつとどうにかすれば出来るはずだ」いつもそう思っている。

中途失明した全盲の中学校教員を現場に戻す私の提案は不可能、話にならないと言われた。しかしどうだろう。彼は秩父長瀬の中学校で堂々たる素晴らしい授業をしている。どんな人にもチャンスがあり最高のステージをつくることができる。そして生徒は差別を拒む心を持つことだろう。好ましいことと信じられる。

埼玉県庁は明治4年から150年間ずっと今の位置にある。しかし、浦和区民に親しまれてきたかと考えると大なる疑問だ。「身近に感じられ、賑わいを創出でき、気軽に訪れられる埼玉県庁をつくれなにか」と強く訴えてきた。

埼玉県庁が県民のものになれるかどうかの壮大な実験のように思われた。6400㎡の緑の広場が完成し、多くの方が憩い、新鮮な県産野菜を売る朝市が開催され、犬や猫の殺処分を防ぎ命を紡ごうと譲渡会が催され、ウォーキングする方が行き交っている。

**当事者の心にならない
ればならない**

江戸時代の天保8(1837)年、大坂町奉行所の与力であった大塩平八郎は、天保の大飢饉に苦しむ民の窮状を見るに忍びず決起。

大塩平八郎の乱である。大塩は、「決起は弾圧され無駄に終わる」と反対する門弟の一人にこう答える。「数日前、淀川を歩いてみると捨て子に会った。その泣く声が私の耳の底に響く。母親が捨てた子を見返りながら立ち去りかけたが、また帰ってきて頬ずりする。ついに意を決して捨てていったが、その母親さえも飢えて死にそうなお姿だった。

お前は赤ん坊の鳴き声とお前の心に紙一枚を隔てている。お前は赤ん坊を見物しているのだ。ただ可哀相だと言いながら。私は違う。赤子が泣くのは私の心が泣くのだ。捨てられた子、飢えたる民、それを前にして見物しながら思案する余地はない。私はこの話が好きた。政府に決起しろと言いたいのではない。議員は当事者の心と同じ心になることを意識しなければならぬ。

「政治は遠い、特に県政は遠い」を変えたい

「議員は何をやっているか分からない」と言われる。

日常的に、なぜ賛成したのかまた反対したのか説明しなければならぬ。課題の本質は何なのかについて議員自らの考え方を表明する必要もある。

それらの作業をしない者はこの世界から去らなければならない。人々の声に耳を傾けようと人の輪の中に好んで入らない者も去らなければならない。



Contents

あさのめ埼玉県議会 全報告

- 2 挑戦、改革、実行力 古い政治を変える私の誓い
- 6 分身ロボット「オリヒメ」を、けやき特別支援学校に複数台導入せよ
- 7 分身ロボット「オリヒメ」 ALSなど重度身体障害の方の生きる力に
- 8 地震防災の指揮所としての機能早急に固めよ!
- 9 スクールカウンセラー 臨床心理士オンリーではダメ 多様な人材で子どもの心に寄り添え
- 10 あの歌を忘れない 思い出のつまった校歌永久保存せよ 廃校になった高校校歌は紛れもない県の財産
- 11 埼玉県観光事業2社に委託集中 民業圧迫ではないか 埼玉県観光事業入札のありかた改善せよ
- 12 「旅立ちの日に」小嶋先生・高橋先生の偉業顕彰せよ 質問から半年後「彩の国特別功労賞」受賞
- 13 埼玉県イメージのブランド化に商標取得は急ぎ必要 コパドン・さいたまっち 質問から9ヶ月後商標登録実現
- 14 光失った教師 再び教壇に立たせよ 差別を拒む社会めざせ「どんな人にもチャンスがある」実現
- 15 埼玉県庁内に、季節感感じられる広場つくれ みんなが訪れられる6,400mの緑の空間が完成!
- 16 新生児タンデムマスマス法検査導入 父母の不安に応えよ
- 16 視覚障害者など交通弱者を救え 道路交差点横断歩道のエスコートゾーン増設を求める
- 17 県立労働会館跡地 県立近代美術館駐車場にせよ
- 18 御遺骨収集を進めるため県の運動進めるべき
- 18 硫黄島御遺骨入間基地へ帰還 知事出迎えよ
- 19 県内にある多様な建造物(インフラ)は埼玉県の誇り ダムカード・橋カードなどのインフラカード充実させよ
- 20 半旗を掲げ 反戦を強く決意せよ 8月15日は「戦没者を追悼し日本の平和を祈念する日」
- 22 県立高等学校入学者選抜の「外国人特別選抜」 希望を広げる未来をつくれ 高校進学をのチャンス
- 23 児童養護施設の出身者の埼玉県立大への進学 希望を広げる未来をつくれ 等しくチャンスを
- 24 埼玉県立浦和図書館跡地 次の役割を持たせよ “明るい声響く広場”建設
- 25 学校現場などで、そろばんの充実を進めよ そろばんは、世界でも突出した最高速外部記憶装置
- 26 県公立高校入試このままではダメ 選択問題をつくれ
- 27 県立高校入試英語だけのふたこぶをなくせ
- 28 見沼田んぼ斜面林の公有地化 急ぎ進めよ 9,200万円の予算獲得
- 29 老朽化した交差点信号制御機、交通標識柱、信号柱 一刻も早く更新を
- 30 嗜痰吸引を必要とする人 不利益にするな
- 32 あさのめ県政報告会の歩み
- 34 あさのめ活動報告
- 36 プロフィール・お問合せ先

信を託されて県議会で本当に多くの仕事をさせていただきました。主要な発言記録をここに報告させていただきます。

冒頭でも書いたが、首長との対決ではなく地方議会が、政策領域を分担していく時代が近づいているのではなからうか。

議会に関する近時の自治法改正動向は、議会の機能強化を主要な目的としてきた。総務省の『地方自治法抜本改正についての考え方』(平成23)では、「議会は、団体意思の決定及び執行機関を監視する機関としての役割を担っており、この役割を果たすため政策形成機能、多様な住民の意思の反映、利害の調整、住民の意見の集約の機能を持ち、この機能を十分に発揮することが求められている」としている。もとより議会の役割は①団体意思決定②執行機関監視だが、その2つの役割を高いレベルで全うするためにも政策形成機能などの充実・強化が欠かせない。そして、機能が強化されるということは、この負託を受ける地方議員一人ひとりの力量が問われていることに他ならない。

埼玉県でも、平成16年に『埼玉県行政に係る基本的な計画』について議会の議決事件と定める条例』を制定し、以来、各分野の基本計画の策定に当たり、議決権の行使を通じて県議会が政策形成の一端を担ってきた。

新時代の地方議会のシンボリックな形態であると私は認識している。首長の執行権に立ち向かうことであ

り、挑む議員の力量が問われる事態でもある。

政治の欺瞞、偽善を許さない 立憲民主党を離党 無所属へ

三年前、県民を欺き続けてきた所属県議を私が容赦なく責めた事件があった。同僚たちは彼を守り自浄が見られなかった。逆に、私が糾弾され党内に味方がいなくなった。身内の不祥事を隠蔽するよくあるパターンだった。大義の退嬰(たいえい)化を愛した。よって、所属していた政党を離れた。離党届を書き押印をし、自分で県連へ提出を行った。約束した時間に反対者は留守。同じビルの衆議院議員事務所は渡した。受け取った者が「出す必要はないのに」と言っていた。

人を排除する政党の小ささに辟易している。今は無所属だ。そうだったからこそ見えてきたことは山のようにある。制約なく仕事は毎日倍やっていた。県民が笑っている時、泣いている県民がいれば、それこそ政治の出番だと確信している。

党に所属していることによって全知全能の気分になってはいけない。欺瞞、偽善を許したくなかった。

議会の放漫は、A級戦犯

子どもの教育、病気の備え、老後の備えなど、貯蓄がなければ生きていけ

ないこの社会なのに、家計貯蓄率はほぼゼロに落ちている。夫婦2人で働くようになったにもかかわらず、世帯の収入はこの20年間で2割近く落ちた。年収300万円以下の世帯が34%となり、国民の9割が老後に不安を感じている。かつての日本とは異質な社会になっている。苦しんでいるのは現役世代だけではない。高齢者の中で生活保護を受ける人の割合は、この20年間で倍増した。「老後の備えとして貯金や資産が足りない」と答えるお年寄りの割合も、欧米の2倍から3倍に達している。

それなのに、財政は再分配、格差是正の力をすっかりなくしてしまっている。財政が介入すると、子どもの貧困率がかえって悪化するという信じられない状況までが生まれている。

かつて北欧諸国と並んで平等国家と言われた日本だったが、今ではジニ係数を見ても、相対的貧困率を見ても、完全な格差社会となってしまった。スパイラルを抑止するため、これらの情勢に立ち向かわない議会の放漫は、A級戦犯なのだ。

万機公論に決すべし 埼玉県議会 非自民の結集を

政治は、多元的な価値観を調整する作業と言われる。多様な主張があつて当たり前という前提がなければならない。



互いの主張の領域の間に落とし所はないのだ。

「万機公論に決すべし」と「五箇条の御誓文」の第一条に記されている。「もしかしたら、この一票で何かを変えることが出来るかもしれない」そんな期待感を有権者は持っている。だから、新時代を作るため、体を張って政治改革運動に挑めない議員は、退場するしかないだろう。

埼玉県議会は自公の寡占状態。正に何かを変えるためにおじけづかず前へ進んできた。もう一つのかたまりを創造し緊張感を高めるために、手を携えて非自民の勢力を形成していくことは必要なことと思っている。

分身ロボット「オリヒメ」を、

その先の未来社会実現させたい

けやき特別支援学校に複数台導入せよ

あさのめ質問 20世紀を代表する思想家、ハイエクは次のように語っている。

「体の弱い子供が、ある社会においては、他の社会よりも多く生き延びるチャンスを持つているかどうかは、その社会の構造に関わることだ。」

この言葉は、分身ロボット「オリヒメ」の存在意義と役割の背中を強く押している。

埼玉県は、「オリヒメ」を一体何台持っているのだろうか、そう思い一生懸命、県庁の中を探した。たった1台だけ見つかった。写真を用意してきた。大変小さな鳥の形をしたロボットだ。この場所は、けやき特別支援学校の教室の中。1台だけあった。



▲「オリヒメ」を使った授業風景▼



余命の限られた難病の子供、重篤な病気が大けがで、治療を余儀なくされている子供が、小児医療センターには入院している。正に、体の弱い子供だ。同センターから併設されているけやき特別支援学校へ、学ぶために毎日通っている。

しかし、治療のためにベッドから動けない、髪の毛が抜け落ちた姿形を誰にも見られたくない、こういった理由で、けやき特別支援学校に通えない子供たちも少なからずいることを私たちは知るべきだ。教育の機会均等から外れがちな子供たちがいるということだ。

「オリヒメ」から授業に参加しているのは正に分身、もう1人の自分だから、学校の教室に置いておけば、リアルタイムで教室の様子が分かる。ベッドから先生の話を聞き、自分の発言をし、クラスメイトの声を聞き、手を振る、目を光らせるなど、自分の体のように動かすことができる。有名になったロボットだ。遠隔で意思疎通ができるなどの優位性が認められ、ベッドの上からでも、まるで教室

にいるのと同じ感情の同期ができて、学習に取り組むことができる。時代は、ここまで来たのだ。もう1枚、写真を持ってきた。両脇にいたのが小児医療センターに入院中でけやき特別支援学校に通っている子供だ。真ん中は、実はもうお亡くなりになった小児がん治療中の女の子がこのロボットから授業に参加をしている。授業の内容は、ヨーロッパ大陸は緯度が高いのになぜ温暖なのかという授業内容だ。

平成30年、令和元年、令和2年と3年間、けやき特別支援学校では「オリヒメ」1台を使った実践教育が行われた。画期的な成果があったと認められ、文部科学省に報告されたと聞いている。

分身ロボットの意義は大きいことから、複数台整備する必要があると私は思う。このことを強く求めたい。

教育長答弁 このロボットの活用で、入院中の児童生徒がまるで教室にいるかのように授業に参加したり、クラスメイトとコミュニケーションをとることが可能となった。また、以前在籍していた学校に配置し、入院前のクラスメイトと交流し、円滑に復学する準備にも活用している。小児がんなどの重篤な病気や大けが

用語解説

埼玉県立けやき特別支援学校とは…

平成29年、埼玉県立小児医療センターは、さいたま市赤病院と併設新設された。同センターに入院している小中学生が、学習するための病弱特別支援学校。同センター7階に開校している。体調や治療に合わせて学習が進められ、注射などの治療が必要な場合や昼食時にはエレベーターで学校と病棟との間を効率よく行き来することができるようになっている。入院前と変わらず学校生活を送れるように、また退院後に元の学校へスムーズに復帰できるように、さまざまな配慮がされている。

(令和3年10月質問)



右・さいたま市赤病院
左・県立小児医療センター

分身ロボット「オリヒメ」

その先の未来社会実現させたい

ALSなど重度身体障害の方の生きる力に

あさのめ質問 ALSは、徐々に全身の筋力が弱くなる病気だ。

自分で食事や呼吸ができなくなる。治療法は対症療法の延命治療、つまり気管切開の呼吸器装着しかない。装着しなければ死を意味するし、装着すれば生を手の中に入れることはできるけれども、絶え間のない絶望から離れることはできない。

患者さんは、埼玉県で535人、日本では約1万人。呼吸器をつけられれば生きられる、つけなければ生きられない。延命希望の方は2割台。理由は先ほど話した通り。執行部の皆さん、呼吸器をつけるか。厳しい現実を前に、私は肅然とさせられる。希望の光、就労の光、生きがいの光をどうやったらかざすことができるのだろうか、私はいつも思う。

群馬県庁は総務部財産有効活用課が主導し、ALSなど重度障害の方が自宅等から「オリヒメ」を遠隔操作し、県庁32階のカフェのスタッフとして働いている。※下段写真参照

東京都港区は障害者福祉課が主導し、7月から、重度障害などで働くことが難しい方を対象に、区役所1階の福祉売店で、「オリヒメ」を使った就業機会の創出事業が始められている。神奈川県庁でも、移動が困難なALSをはじめとした障害の方が「オリヒ

メ」を使った在宅勤務により、福祉シヨップへの来訪者に案内や声かけを実施した。

我々が目指さなければならぬ未来社会は、重度身体障害者でも、難病でも、様々な理由で家から出られない人でも子供でも、存在や役割を得て、誰かに必要とされている、自分は人のために必要とされている、自分は生きていくに自覚できて、自分を否定しなくなる社会ではないか。

通勤が難しくても、ベッドの上でも、在宅なら働ける。そういったALS患者さん、肢体不自由の方も多いため、移動が不可能でも、行きたい場所、行かなければならない場所に、この「オリヒメ」を置けば、その場にいるかのようなコミュニケーションが可能で、就労の可能性が広がる。

新しいテクノロジーを活用した、障害者の方々の絶望から脱却した社会参画、就労の支援を埼玉県として行うことで、共生社会の実現を図ることはできないか、新しいロールモデルを構築できないか、答弁を求めたい。

福祉部長答弁 議員お話しした通り、重い障害があっても社会参加や就労につながる

用語解説

分身ロボット「OriHime」とは…

吉藤健太郎氏(34)が学生時代に開発した遠隔でコミュニケーションができるロボット。カメラ、マイク、スピーカーが搭載されている。様々な名称で呼ばれるが、ここでは「オリヒメ」と統一した。医療、教育、テレワークなどで活用が進められている。



新しくオリヒメ設置が決まった「埼玉しごとセンター」(さいたま市南区のラムザタワー)



カフェで活躍する「オリヒメ」(群馬県庁 32F)

(令和3年10月質問)

地震防災の指揮所としての機能早急に固めよ！

県HPIに 防災震災バナー貼れ

あさのめ質問 他の都道府県に比し対策にかなり差をつけられている。地震対策の県の真剣な意気込みが伝わってこない。



**災害対策施設
大急ぎでつくれ**

あさのめ質問 2 静岡県庁を視察した。それに比べ埼玉県の施設は脆弱。例えば災害状況をスクリーンで共有できる設備さえない。災害対策に相応しい施設が必要ではないか。

あさのめ質問 1 県の顔と言える埼玉県HPIのトップページに、多くの都道府県に見られるような「防災震災に関する情報」のようなバナーが貼られていない。いったん危機となれば安全のための情報を求めて膨大なアクセスが殺到する。これは予想だにしない。メニューも見つけられない。インデックスも見つけることはできない。バナーを貼り県民に防災情報の門戸を広げるべき。



県HPIに「防災バナー」貼る

あさのめ質問 1 県の顔と言える埼玉県HPIのトップページに、多くの都道府県に見られるような「防災震災に関する情報」のようなバナーが貼られていない。いったん危機となれば安全のための情報を求めて膨大なアクセスが殺到する。これは予想だにしない。メニューも見つけられない。インデックスも見つけることはできない。バナーを貼り県民に防災情報の門戸を広げるべき。



埼玉県危機管理防災センター（浦和区仲町）完成（平成23年3月11日）

（平成19年10月質問）

あさのめ質問 平成13年度から文部科学省の補助事業としてスクールカウンセラー配置事業がスタートした。同年、埼玉県で県内公立中学校82校、県立高校2校に初めて配置され、SC事業がスタートした。平成19年度、当初の目標通り県内全公立中学校、一部の高等学校などにSCは配置された。

この事業が成果を生むためには、当然児童生徒の多様な心の問題に関して高度に専門的な知識経験を有するものなどが、何より心に寄り添える人物が選考されるべきなのは当然なことだ。このSCの人選に、配慮をすべきことが書かれている文書がある。文部科学省初等中等教育局長裁定の文書、スクールカウンセラー等活用事業実施要領だ。この中で、①日本臨床心理士資

格認定協会の認定に係る臨床心理士と記されている。また②経験を有する者、いわばスクールカウンセラーに準ずる者と記されている。けれども、埼玉県は①のみの採用が一貫して続き、12年間、②を一人も採用したことはない。この実態は全国的に見れば少数派だ。日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士は、そもそも単なる民間団体の資格であり国家資格でも何でもない。①のみに固執してい

るその論拠を聞きたい。財務省の調査票では、興味深い②が多くいる自治体で、大きな事業成果が見られると言いつつ切られている。加えて、平成23年2月に文科省初等中等教育局児童生徒課長から都道府県指導事務主管課長へ発せられた文書には、②も積極的な活用を願うとある。財務省、文部科学省も、①のみの選考では効果が上がらないと述べ、採用実態へ警鐘を鳴らし②の採用を促し、

臨床心理士オンリーではダメ スクールカウンセラー 多様な人材で子どもの心に寄り添え



ている。生徒、児童の心の課題を解決するための専門家は実はたくさんいる。学校カウンセラー、学校心理士、キャリアカウンセラー、認定カウンセラー、臨床発達心理士などだ。そもそもSCは、何のためにいるのかをよく考えるべき。

えば、その子に寄り添い励まし、行く手を示してあげられる人物が採用されなければならぬはずだ。確実な成果を上げるために、一つの団体の資格者だけを独占せず、様々な資格者の総合力で対応すべきと考える。

解説 私の問いかけが理解され、スクールカウンセラーは臨床心理士だけでなく「心理業務または児童生徒を対象とした相談業務に、1年以上の経験を有する者」をはじめとして、実に多様な人材からなる「専門家集団」として生まれ変わることとなった。埼玉県内では、現在、240名のスクールカウンセラーが、子供たちや保護者、教職員の相談に応じ、適切に助言や援助をしている。



スクールカウンセラーが悩みに応える「相談室」

（平成25年6月質問）

「旅立ちの日に」小嶋先生・高橋先生の偉業顕彰せよ

質問から半年後「彩の国特別功労賞」受賞

あさのめ質問 「旅立ちの日に」を御存知だろうか。平成3年、秩父市立影森中の小嶋登校長が作詞し高橋浩美先生が作曲した合唱曲。卒業式ソングの定番。平成19年NTT東日本フレッツ光のCMでS.M.A.P.が歌った。同21年東京デイズニッシーのCMに使われた。だから、「白い光の中に」で始まるこの歌を聞き覚えのある人は多いはず。

T.V.局全国300校調査「卒業式に歌う歌は？」によれば、「仰げば尊し」58校、「大地讃頌」58校、「蛍の光」51校。この「旅立ちの日に」は161校。断トツの一番。全国の6割の学校で歌われている。

秩父市は、功績を称えふると文化賞を贈呈。しかし県・県教育委員会も先生の偉大な功績を称え顕彰する動きがない。そんな矢先、政府は2月15日閣議で、徒六位瑞宝双光章授与を決定。功績は無視されてよいのか。良しはずはないと思う。

小嶋先生、高橋先生の偉業顕彰すべき。

知事答弁 この歌の素晴らしさを知っていたしおどくなりになったことも知っていたが、問題指摘、正にその通りだ。しっかりと検討し、しかるべき顕彰なり表彰をしたい。

解説 何と胸の高鳴る詩なのだろう。何と決然とした意志を示す旋律の曲なのだろう。「不安な未来だけれど希望を持ち、みんな乗り越えていこう」秩父市立影森中学校の小嶋校長先生と音楽教員高橋先生が、中学三年生へ対する強く優しい思いが詰まっている。

瞬く間に、全国すみずみまで広まったこの卒業式ソング「旅立ちの日に」は、紛れもなく、埼玉県の宝と言っていいはずだ。私はこの歌を聴くたびに、ポロ泣きとなる。

質問から半年後、「彩の国特別功労賞」がお二人に与えられた。



彩の国特別功労賞、元秩父市立影森中学校長「旅立ちの日に」作詞者小嶋登、故小嶋登先生に代わり、ご長男が賞を受けられました。

小嶋、高橋氏が受賞へ

「旅立ちの日に」卒業式で定番曲 作詞、作曲 卒業式で定番曲

彩の国特別功労賞

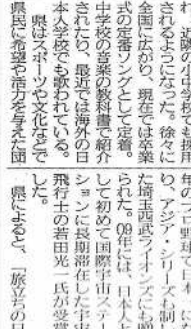
多くの小中学校、高校の卒業式で歌われている合唱曲「旅立ちの日に」を作詞した秩父市立影森中学校長小嶋登、作曲した秩父市立影森中学校音楽教員高橋浩美が、県の「彩の国特別功労賞」を受賞した。この日は、秩父市立影森中学校で授賞式が行われ、小嶋校長と高橋先生は、市長から賞状と賞金を授けられた。



「彩の国特別功労賞」が贈られることになった小嶋登さん（故人）と高橋浩美さん（左）

多くの人に夢と希望

「旅立ちの日に」は、秩父市立影森中学校で、小嶋校長と高橋先生が、1983年、小嶋校長が、高橋先生と共同で作曲した。この曲は、卒業式で歌われる定番曲として、全国の多くの学校で歌われている。小嶋校長は、この曲が、多くの子どもたちに夢と希望を与えていると語った。



「彩の国特別功労賞」が贈られることになった小嶋登さん（故人）と高橋浩美さん（左）

実現!



「一度お会いしたかった」作詞者 故小嶋登先生のご長男 作曲者 高橋浩美先生

平成23年度 県民の日記念式典

「旅立ちの日に」 作詞 小嶋登 作曲 高橋浩美

▶受賞を祝い秩父市立影森中の生徒により「旅立ちの日に」が歌われた

県、功績の顕彰検討

秩父の小嶋さん 小嶋登さん、高橋浩美さん、二人は、卒業式で歌われる「旅立ちの日に」を作詞・作曲した。この曲は、全国の多くの学校で歌われている。県は、二人の功績を顕彰することを検討している。

(平成23年3月質問)

埼玉県イメージのブランド化に商標取得は急ぎ必要

コバトン・さいいたまっち質問から9ヶ月後商標登録実現

あさのめ質問 世界中で人気の米国アップル社製の多機能携帯端末iPad。中国国内において「iPad」という名称を使用する権利、すなわち商標権をめぐる争われていた訴訟があった。訴訟合戦は繰り返され、アップル社を訴えていた中国企業が6000万ドル、約48億円をアップル社側から受け取るこ

とで和解をした。驚愕の事実だ。商標登録をきちっとしていなかったために起きた事件と言える。他人が信用にフリーライド、ただ乗りしてしまいう象徴的な例と言える。このような行為により、本来得られるはずであった利益が他人に奪われてしまうことになってしまふ。

県が権利主体となり、守り抜かなければならないブランドは、実はたくさんある。愛されているコバトン、さいいたまっちのブランドを守るため、県は商標登録する考えがあるのかを問う。

多くの人が使って頂きたいからという、よく分からない幻想を信じて、これまでアクシデントが起きなかったことは奇跡だ。これからも、いつまでも愛されるために、一刻も早く商標登録すべきだと考える。

県民生活部長答弁 第三者が商標を取得した場合は、コバトン、さいいたまっちのネーミングを商標を取得した者の許諾が必要となり、多くの方に使用頂くことができないようになるかもしれない。今まで築いてきたコバトン、さいいたまっちのイメージを損なう使用がされる可能性も否定できない。

解説 私は大変な危機感を持ち、質問をした。県も焦ったのだろう。3か月後の9月20日には出願をし、翌年3月31日に登録された。大切な「コバトン」「さいいたまっち」。他者からの権利侵害を防げたことに満足している。

コバトン・さいいたまっち

県が商標登録検討

県は、マスコットの「コバトン」「さいいたまっち」を商標登録する方向で検討に入った。登録されたら、県の許諾なしに、ネーミングなどを商用に使うことができない。

コバトンは2004年の埼玉国体大会マスコットに採用された。その後、県のマスコットになった。さいいたまちはコバトンの後、2014年に誕生したが、ともに商標登録されていなかった。

このため、県以外の他者が先に商標登録した場合、許諾費用が発生するなど利用に制約が生じる恐れも出てくる。今年14日の県議会一般質問で、浅野目義英議員（民進・無所属の会）が「県民共有のブランドを守るべきだ」と指摘したのに対し、「他者からの権利侵害を防ぐのが何よりも重要。商標登録する方向で検討していきたい」と答えた。

他県のマスコットでは、「くまモン」（熊本県）や「チーパン」（千葉県）、また県内でも深谷市の「ぶっかちゃん」がすでに商標登録されている。

くまモン、ぶっかちゃん、そして、ひこにゃんは商標登録されている。けれども、埼玉のコバトン、そして、さいいたまちは商標登録されていない。全国では、地方自治体が知らないうちに公式キャラクターを商標登録されようになった事例、無断で地方自治体のキャラクターの名称を商標登録出願されてしまった事例、これらの事件がいくつも起きている。

権利侵害に鋭敏になっている他都道府県に比べると、埼玉の対応は首をかしげたくなる。県民に親しく広く愛されてきたコバトンは16歳になった。さいいたまちは1歳半になった。よくぞ今まで権利侵害されなかったと思わ



(平成28年6月質問)

実現!



あさのめ質問

あさのめ質問

| 商標取得への流れ | |
|----------|------------|
| あさのめ質問 | 平成28年6月14日 |
| 出願日 | 平成28年9月20日 |
| 登録日 | 平成29年3月31日 |

しまれているコバトン、さいいたまっちを引き続き多くの方にご使用頂くために、他者からの権利侵害を防ぐことが何より重要となる。

浅野目議員からの御提言を受け、今後、商標登録を行

光失った教師 再び教壇に立たせよ

実現!

あさのめ質問 人にとり光を失うという事は筆舌に尽くしがたい苦難。私は青年会議所会員時代、アイマスクをつけて駅の階段の昇降や歩行訓練をしたことがある。その時、こんなに苦勞されているのかと、目が不自由な人の立場を初めて実感した。

知事はよく、「誰でもチャンスがある社会がいい社会」と述べる。福岡出身だから知事はダメ。女性だから副知事はダメとは私は聞かない。すべての人にチャンスがあるということだ。

運命のいたずらで光を失った県立盲学校勤務の先生がいる。彼は元中学校教師。グラウンドで生徒と一緒に走り回る活発な、そして生徒から大変人気のある、また熱心に生徒と夢と希望を語る国語の先生だった。

両眼とも網膜剥離で右日視力0、左目は光を感じるだけ。

「目が見えなくなったら盲学校で」とか「いくら望んでも普通校では働けない」とか「通勤片道2時間半、5時間半かかる」と知らない」という県教育委員会の姿勢には納得できない。

得できない。確保己一の偉業を顕彰する埼玉県が理念を守り抜くためにも、**全盲となった教師が普通校の現場で再び教えることへの道筋はかるべき**。教育委員会が判断することだが、知事の深い理解と強い指導力を求めたい。

知事答弁 それぞれの市町村教育委員会にお願いとややこしいことを受けないという文化もゼロではない。**すぐに対応したい**。面倒くさがらず、多くの人たちにチャンスが与えられるようなこ

と、真剣に教育委員会に取り組んで欲しい。**解説** 7年間にわたる政治浪人生活を経て、県議会議員に当選させて頂いたのが平成19年。

私はこの年の10月に初登壇をし、「中途失明者の中学校の先生を現場に戻して欲しい。差別を許してはいけない」との質問を、知事に投げかけた。

久しぶりの議会質問だったので、気が負った気持ちも相当あったし、やり甲斐のある課題でもあると認識していた。

教育委員会や知事部局の理解を得ら

れ、翌年、平成20年4月から、新井先生は、長瀬中学校に勤務された。質問から半年という異例のスピードであった。

平成26年には、全盲で全国初の普通中学校クラス担任にもなられた。教え子たちは差別を拒む心を持つはずだし、新井先生にはどんな人にもチャンスがある社会をつくる原点になつてもらいたい。そんなことを思った。

県議会議員の私にとり、記憶に留められる、満足感あふれる質問と答弁であった。

全盲の中学教師 普通学級に復帰



皆野の新井さん

「わたしは皆野さんの姿が見えません。声だけが頼りです」。新井先生（はくわ）で金西と名づけた盲導犬が、新井先生を導いて歩いている。新井先生は、失明後、15年ぶりに普通学級の教壇に復帰した。新井先生は、失明後、15年ぶりに普通学級の教壇に復帰した。新井先生は、失明後、15年ぶりに普通学級の教壇に復帰した。

「生きる力示したい」

新井先生は失明の瞬間、目の網膜が剥離し、両眼とも失明した。失明後、15年ぶりに普通学級の教壇に復帰した。新井先生は、失明後、15年ぶりに普通学級の教壇に復帰した。



(平成19年10月質問)

埼玉県庁内に、季節感感じられる広場つくれ みんなが訪れられる6400㎡の緑の空間が完成!



県庁みどりの広場（浦和区高砂）

身近なお役所へ 県庁イメチェン

21日、朝市を初開催

県庁みどりの広場（浦和区高砂）が、21日（土）朝市を初開催した。朝市には、県内各地から新鮮野菜が並び、多くの方々が訪れる憩いの空間が広がった。

広場 カフェも整備

県庁みどりの広場に、カフェも整備された。広場には、多くの方々が訪れる憩いの空間が広がった。



(平成23年2月、平成26年12月質問)

あさのめ質問 明治4年から浦和に県庁があり、県庁は浦和にあった。なのに浦和区民の生活に県庁がある実感が無い。

身近に感じられ、賑わいを創出でき、気軽に県庁を訪れられる環境をつくれな

浦和の方々に身近に感じてもらうには、気軽に訪ねていただくことは、埼玉県庁の役割や仕事を知っていただくのに必要。

部長答弁 車庫跡地に芝生広場の設備を計画する。面積6400㎡。イベントや展示販売にも活用できる。

この空間を地域の憩いの広場とし、埼玉県庁を身近なものとして感じて頂きたい。

解説 「県庁朝市」、「ペット譲渡会」、また県庁内にある「コバトン保育園の運動会」などにも活用されている。

多くの樹木が植えられており、草木の香りを感じ、季節の移ろいを感じることのできる「みどりのひろば」は、多くの方々が訪れる憩いの空間になっている。

この質問をした当初「県庁は行政官庁で人が集まるところではない」と県庁関係者に指摘された。しかしどうだろう。多くの人で賑わうこの広場ができて、良かったと思っている。

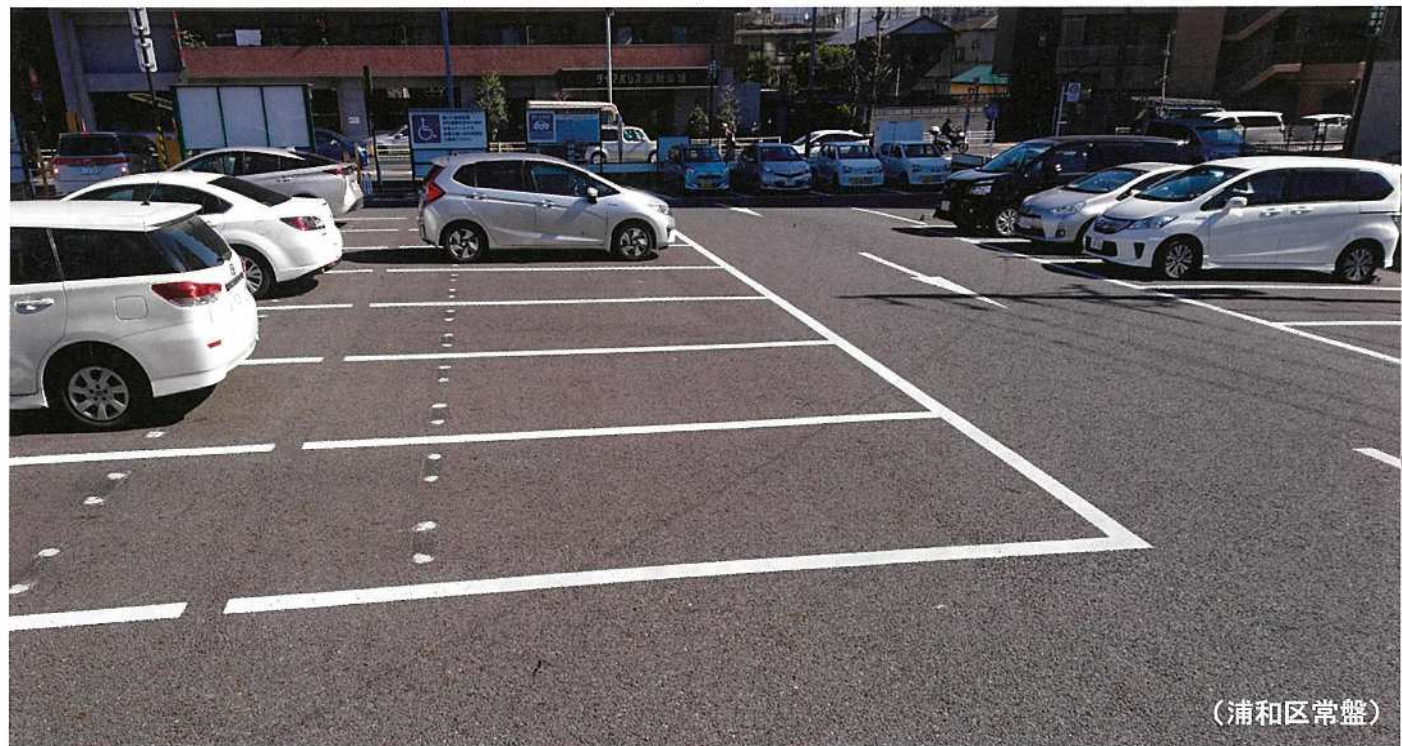


命をつむぐ「ペット譲渡会」

県立労働会館跡地

太陽光パネル、プライベートテント・プラカなどが設置されている

県立近代美術館駐車場にせよ



(浦和区常盤)



実現!

あさのめ質問 平成21年埼玉県議会6月定例会で、労働会館の機能を停止する条例が可決した。長い間、浦和や埼玉の人々に愛されてきたが、45年間の歴史に幕が下ろされた。老朽化が進み、耐震性の問題があった。また緊急輸送道路の沿道の建造物であったので、災害時に国道17号をふさいでしまえば、大きな問題を引き起こす可能性があるとの心配もされた。よって、道路の安全性を確保するために、平成22年1月から解体工事がスタートした。労働会館跡地の有効活用を図れないか。近隣に県立近代美術館がある。足の不自由な方や高齢者の方など、同館に駐車場がなく困っている。県立近代美術館の駐車場にするべきだ。



今はない「県労働会館」

(平成25年6月質問)

総務部長答弁 県立近代美術館の駐車場として活用を検討すべきとのご提案についてはすみやかに調査を行う。旧労働会館跡地の公的活用策の一つとして検討する。
解説 長い歴史に包まれた旧労働会館。平成25年から駐車場として生まれ変わった。県立近代美術館のアクセスのための駐車場として、高齢者や身体にハンディのある方々などに喜ばれている。

新生児タンデムマス法 検査導入 父母の不安に答えよ

あさのめ質問 昭和52年、全国で新生児マススクリーニング検査が導入された。目的はただ一つ、赤ちゃんの生まれつきの病気を早期発見し、障害が出ないよう予防するためだ。発症前発見で有効治療法が確立している、メーブルシロップ尿法、甲状腺機能低下症などを対象に、同検査が実施されてきた。ところで近年20種類以上の疾患が一度に判明するタンデムマス法が開発された。

神奈川県では去年11月、千葉県、岐阜県、東京都では今年4月、このタンデムマス法が実施され、埼玉県では10月から実施される。実施期間が他自治体と比べ遅れたことは悔やまれる。だが厳しい財政状況で検査廃止したり、また導入に躊躇する自治体もある。少し遅まきだったが、埼玉県がこの事業遂行の決意をし、制度整備をしたことは高く評価がされている。タンデムマス法により病気が見つかったお子さんの保護者は、今後のお子さんの将来を非常に心配している。今後どのような経過をたどるのか。この病気がともマイナーであること、電車の中、幼稚園で発作が起きたらどうしようか、考えたら切りがない。希少疾患のため身近に相談相手がおらず、不安でいっぱい家族も多いはず。サポート体制が必要。新生児検査は、早期発見で子供が生涯幸せに暮らせるようにする事業のはず。発見したからそれでいい、では話にならない。
病院事業管理者答弁 病気が疑われた時は精密検査をし、病気が疑われたら専門医の丁寧な説明、最も効果的な治療を行う。また、緊急時の対処法指導や公的助成制度の説明などを。一貫したきめ細やかな対応で、病気を気遣う親御さんの御不安、御心配を解消する。



タンデムマス機器 (小児医療センター)

実現!

視覚障害者など交通弱者を救え 道路交差点横断歩道のエスコートゾーン 増設を求める

あさのめ質問 道路交差点横断歩道を安全に渡りけることは、健常者なら誰でも簡単にできること。しかし視覚障害者や視覚機能が低下する高齢者の方には、なかなか困難だ。このことがスムーズにできるように、横断歩道上の中央付近に突起物の列ブロックが敷設されている場合がある。見た方もいると思う。エスコートゾーンと呼ばれるものだ。従来の点字ブロックよりも優れており、このエスコートゾーンのブロックは突起の先端の直径が小さく、側面の傾斜角度が緩やかな形をしている。車いすなどで車輪で移動した場合でも抵抗をあまり感じることなく横断ができる。道路交差点、横断歩道上で視覚障害者が方向を見失って立ち往生しているうちに、信号が赤に変わって危険な事態のような事例を少しでも解消するために役立つ。

交通弱者に配慮した交通対策を一層すすめるべき。 県内では13か所しかエスコートゾーンがつけられていない。岡山県、東京都は100か所を超



北浦和駅東口のエスコートゾーン (浦和区北浦和)

えている。県内のエスコートゾーンの増設を強く求めたい。
警察本部長答弁 平成9年度に春日部市の春日部郵便局前交差点に、県内初のエスコートゾーンを設置した。以降、道路管理者及び警察の双方で整備を進めている。
今年度、要望を踏まえながら、さいたま市の北浦和駅東口交差点、川口市の川口駅前交差点などに**12本を設置する**。

実現!